

【取り組みのねらい】

校種とレベルを問わず、どの教科担当教員でも実施できるNIEの開発を目指す。そして、NIE担当教員が異動した後も作動し続けるシステムを構築し、新聞を教育に利用しやすくしていく方法の普及に努める。

- 1 新聞の記事・写真から、「共感する力」・「想像する力」・「自分の糧とする力」を培う。
- 2 生徒が主体的に新聞を利用し、情報の収集・分析・発信を行えるようにする。
- 3 家庭や地域への話題提供を旨とし、保護者・学校・地域と三位一体型の教育を目指す。

【具体的方法】

- 1 NIE委員会or新聞委員会なる名称の委員会を立ち上げ、正式な生徒会の下部組織としてしまふ。各クラス毎に委員を選出。この時、小論文入試や国公立大学二次試験の対策になる、就職自己PR文がうまくなるなど、付加価値をつけて募集する。

効果 →①NIE担当教員が異動しても、システムとして作動し続ける。
②付加価値に釣られて、熱意とやる気のある者が集まり、充実した委員会活動と進路対策になる。

- 2 委員会において、テーマを設定する。学年や時期、タイムリーな話題性に応じて、適宜決めていく。
(例) 地域文化・地場産業・心の教育・修学旅行・平和・人権・国際・情報・進学・就職など

効果 →保護者に関連する職業や生徒自身の住んでいる地域、学校の所在する地域、生徒の興味のある分野、身近な話題を出題することにより、情報発信への自信がつく。また、記事を選ぶ手掛かりにもなる。全くのフリーだと、どの記事を選んだら良いのか、却って混乱してしまう。

- 3 委員は記事を選びプリント(書式として「枠」を作っておく)に切り貼りする。自分の氏名と記事を選んだ理由・皆に考えて欲しいことを記入。印刷。

効果 →委員は目的を持って読む(情報を収集する)・コメントを書く(分析し、発信する)という作業を行える。更に発信する為には補足的な知識も必要となり、内容理解と共に生徒の成長が望める。また自分の名前を明記することにより責任感が芽生える。

- 4 朝の10分間で記事と委員のコメントを読む。そして記事やコメントに対する感想・反論を書き、ファイルに保存する。

効果 →自分と同じ学校の生徒が選んだ記事と書いたコメントを通じて、情報を取り込み(読む)、分析し(考える)、発信する(書く)という習慣が身に付く。

利用法 →①担任変更時の面接資料や進路指導の材料となる。また、推薦入試の人物紹介や、面接時の時事問題対策として有効である。
②小論文の指導教官へ提出し、指導の方針策定に役立つ。また、AO入試では高校時代の作品として送付できる《かもしれない》。

- 5 保護者会のクラス懇談を利用し、保護者に自分の子供のファイルを配布。子供に対するメッセージを書いてもらう。

効果 →①自分の子供へのメッセージを書くことにより、来校した保護者が参加意識を持つことができる。
②少しでも自分の子供の内面を知る機会が得られる。
③家庭への話題提供になる。

- 6 保護者の書いたメッセージを生徒に返し、感想を書かせる。

効果 →①1つの記事からどんどん文章の輪が広がり、内容をリフレインすることにより理解が深まることが判る。時間の経過による情報価値と情勢の変化を実感できる。
②意外に知らなかった親子の姿が、互いに確認できる《だろう》。

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

【指導上の注意、課題】

委員会のシステムを作り上げるまで、大変かもしれない。その際は学年係として対応してほしい。学年ごとの実施ならば、それほど抵抗感は無いと思われる。

また、1年次の取り組みから完璧にスタートするのではなく、まず最初は当番が記事を音読するだけ、次はその記事を書き取る、など段階を踏んで進めてみて良いかもしれない。